

# 中学校地誌学習における世界像

—「空間認識」及び「社会と自己の関係性」の形成を視点として—

教科・領域教育専攻

社会系コース

M07175J

鈴木 祐子

## I 研究の目的と方法

### 1 研究の目的

- (1) 子どものもっている世界像が意志決定とどのように関わっているかを明らかにするとともに、世界像は一体どのようにして成り立っているのか、その構成要素を究明する。
- (2) (1)の成果をもとに、中学校社会科において、子どもの世界像の構築を目指す地誌学習はどうあるべきかを検討し、実際に授業モデルを開発する。

### 2 研究の方法

- (1) 現代社会において求められる資質と子どもの実態を考察し、社会科教育における世界像構築の意義を明らかにする。
- (2) 世界像と世界観の関係を考察するとともに、「空間認識」や「社会と自己の関係性」に関わる先行研究を整理・分析し、世界像の構成要素を明らかにする。
- (3) 地誌学習における課題と克服の試み、認知科学の研究成果、サンプル・スタディと地図の効果を考察し、世界像構築を目指す学習の方途を明らかにする。
- (4) 世界地理に関する先行授業実践を収集・分析し、世界像の構築を目指す社会科授業の在り方を明らかにする。
- (5) 以上(1)～(4)の成果をもとに、世界像の

構築を目指す中学校社会科地誌学習の授業モデルを設計し、提示する。

## II 論文構成

### 序論

### 第I章 世界像構築の意義

### 第II章 世界像の構成要素

### 第III章 世界像の構築を目指す学習の方途

### 第IV章 世界像の構築を視点とした社会科授業分析

### 第V章 世界像の構築を目指す社会科授業設計

### 結論

## III 研究の概要

### 1 世界像構築の意義

グローバル化、情報化が進展する現代社会において、社会科教育は、子どもの将来の地域社会への参画を見据えながら、シティズンシップや参画の態度の土台として「世界像」の構築を図ることが求められている。地誌学習は、情報選択の原理を学びながら、現代を構成する世界について考察するものであり、「世界像」の構築に直結するものである。中学校社会科でどのような地誌学習を展開するか、それが子どもの世界の認識を左右する鍵となっている。

### 2 世界像の構成要素

世界像とは、世界についての情報を世界観

に基づいて組み立てたものであり、その人の空間的行動の際の判断の土台になる。世界のどのような情報を組み立てるかという「空間認識」は、先行研究を整理した結果、「地名」が空間の中で位置付けられ(点的把握)、幾つかの点が共通項で結ばれて「分布」となり(面的把握)、関わりのある他の地域と結び付き(構造的把握)、地域性の認識(総合的把握)へと高まっていくことが明らかになった。一方、空間のネットワークとして世界像を描くことができるようになるためには、世界の様々な地域に暮らす人々と自分の生活を結びつけ、社会の中に自己を位置付ける「社会と自己の関係性」が大きく影響する。

### 3 世界像の構築を目指す学習の方途

平板羅列的・網羅的な地誌学習を克服するための方途、事例の機能と認知科学における学習の転移、サンプル・スタディの理論と地図の効果について考察し、世界像の構築を目指す地誌学習がどうあるべきかを明らかにした。

地誌学習を、平板・羅列的な暗記注入学習に陥らないようにするには、地域の構造や人間の活動に注目し、事例を通して学習する方法が有効である。事例が具体的であるほど子どもの理解も容易になる。しかし、事例とは、ただ学習するだけで事例として機能するわけではない。一般化、或いは抽象化という過程を経て、子ども自身がその典型性に気付く必要がある。また、一般化の過程では、地図の活用が有効であることが明らかになった。地図は、子どもの世界像への影響も大きい。学習場面に応じて様々なスケールの地図を用いることで、子どもに、階層構造をもつ地域のまとまりとつながり、すなわち「地域系」の概念を育てていかなければならない。

### 4 世界像の構築を視点とした社会科授業分析

研究成果から分析視点を抽出して「世界像の構築を目指す授業分析フレームワーク」を作成し先行授業実践の分析を行った。分析視点をもとに、社会科授業実践の傾向や課題を考察し、世界像の構築を目指す社会科授業の在り方を明示した。

### 5 世界像の構築を目指す社会科授業設計

本研究では、中学校の世界地誌学習の導入として「アジア」を取り上げ、授業モデルの開発にあたった。アジアの地域性をとらえるための「典型」事例として中国北京郊外に住む「ツイさん一家の暮らし」を選定した。子どもが実感をもって空間を把握したり、情報を処理したりしながら地域性を追究し、まとめの段階においてさらに学習意欲が高揚するような授業を目指して、その開発を試みたものである。

## IV 研究の成果と課題

本研究の意義は、第一に、世界像の構成要素を解明したことである。「空間認識」と「社会と自己の関係性」の2つの視点から世界像をとらえたことで、世界像の構成が明らかとなった。第二に、世界像の構築を目指す学習の方途を明らかにしたこと、第三に、先行授業実践の分析結果をもとに、世界像の構築を目指す社会科授業モデルを開発、提示したことである。今後の課題は、本研究で提示した授業モデルをもとに授業実践をすすめること、そして、「典型」事例のさらなる開発及びカリキュラムの編成である。

主任指導教官 岩田 一彦

指導教官 岩田 一彦